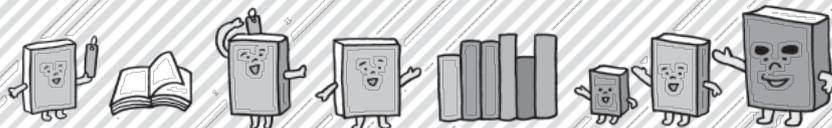


図書館へ 行こう！ 6月号



水無月・6月となりました。梅雨のうつつしさも気持ちを切り換えて、静かな雨音を聞きながら物思いにふけったり、手紙をしたためてみたり、本を開いてみたりしておうち時間を楽しく過ごしませんか？
図書館に出かけるのも気分転換になるのでは？たくさんの本とともに皆さんのお越しをお待ちしています。

今月の読み聞かせ

- おはなしひろば 毎週火曜日 10:30～11:00(おはなしひろば)
たけのこ文庫のおはなし会 6月19日(土) 15:00～15:30
おはなしルーム 竹田幼稚園 6月10日(木) 14:00～14:30
南部幼稚園 6月24日(木) 14:00～14:30

開館のご案内

- 竹田市立図書館 (TEL&FAX 63-1048)
開館時間 午前10時～午後6時 / 休館日 月曜日・第4金曜日
荻駅交流館図書室 (TEL&FAX 68-2200)
開館時間 午前10時～午後6時 / 休館日 土・日・祝日等
久住図書室 (TEL 76-0717 / FAX 76-0724)
直入図書室 (TEL 75-2211 / FAX 75-2217)
開館時間 午前8時30分～午後5時 / 休館日 土・日・祝日等

新刊のご案内

【一般の本】

- ・白鳥とコウモリ[幻冬舎] 東野 圭吾
- ・新謎解きはディナーのあとで[小学館] 東川 篤哉
- ・本日も晴天なりー鉄砲同心つつじ暦ー[集英社] 梶 よう子
- ・ドキュメント[KADOKAWA] 湊 かなえ
- ・アウトサイダー(上・下)[文藝春秋] スティーヴン・キング
- ・小福ときどき災難[集英社] 群 ようこ
- ・大友義鎮[ミネルヴァ書房] 鹿毛 敏夫
- ・南小国町の奇跡ー稼げる町になるために大切なことー
[CCCメディアハウス] 柳原 秀哉
- ・少しぐらいの嘘は大目に一向田邦子の言葉ー[新潮社] 向田 邦子
- ・そして、すべては迷宮へ[文藝春秋] 中野 京子

【児童書】

- ・ルルとララのガトーショコラ[岩崎書店] あんびる やすこ
- ・ふしぎ駄菓子屋銭天堂15[偕成社] 廣嶋 玲子 作/jyajya 絵
- ・だじゃれことわざ[理論社] ななもり さちこ 作/ゴトウ ノリユキ 絵
- ・あおぞらこども食堂はじまります！[ポプラ社] いたう みく 作/丸山 ゆき 絵
- ・サンドイッチクラブ[岩波書店] 長江 優子
- ・あなふさぎのジグモンタ[ひさかたチャイルド] とみなが まい 作/たかお ゆうこ 絵
- ・うさぎのパンやさんのいちにち[復刊ドットコム] かこ さとし
- ・しげちゃんのはつこい[金の星社] 室井 滋 作/長谷川 義史 絵
- ・10かいだてのまほうつかいのおしろ[PHP研究所] のはな はるか
- ・オサム[童話屋] 谷川 俊太郎 文/あべ 弘士 絵
他250冊ほど入りました。

司書おすすめの1冊



一般書

「城の月 志賀親次と豊後・吉利支丹王国」

悠木 一雅 文芸社



竹田市のシンボルである岡城。かつての城主・志賀親次は豊後に壮大な吉利支丹王国を築いた大友宗麟の臣下で、侍女に啓蒙されて敬虔なキリスト教徒となる。しかし、大友家が宗麟の息子の代となり衰退をはじめると、乱世の戦いに巻き込まれ、ついに主家を失ってしまう…。

県内在住の著者が、岡城を中心に大友時代の大大分県を全国で紹介したいという思いから生まれた作品です。

児童書

「ぼくのあいぼうはカモノハシ」

ミヒヤエル・エングラール 作 / はたさわ ゆうこ 訳 徳間書店

ルフスはドイツに住む男の子。ある日ルフスが出会ったのは動物園から逃げてきたカモノハシ。なんとそのカモノハシは人間の言葉をしゃべるカモノハシだった！

オーストラリアにいるパパに会いたいルフスと、オーストラリアに帰りたいカモノハシは一緒に行こうと計画を立てるのですが…。彼らは無事に目的地にたどり着くことができるのでしょうか？



郷土の本

「竹楽の歩み」

NPO法人里山保全竹活用百人会



毎年秋に開催される「竹楽」が始まったのは2000年からでした。竹灯籠2千本を武家屋敷通りに設置するところから始まり、現在では2万本の竹灯籠が市内各所を幻想的に照らします。

竹楽20周年記念誌である本誌では「竹楽」が始まった経緯、関係者の方々の想い、作業の様子を知ることができます。本誌を通して「竹楽」に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

「登山ガイド 新大分百山(大分百山・三訂版)」

公益社団法人日本山岳会東九州支部

2002年刊行の『大分百山 改訂版』から20年近く経ち、『新大分百山』が刊行されました。選定された山についての地誌や地形、歴史や動植物等のほか、その山へのアプローチ、登山ルートが写真とともに記載されています。登山者のためのブックガイドとしてだけでなく、大分の山の魅力を知ることが出来る1冊です。

